

浄土宗

ちかいざんべんそういん
智海山辨相院

さいねんじ
西念寺

本尊

あみだによらい
阿弥陀如来

由緒

「国郡志小方村」によると、西念寺の開祖は光明院（廿日市市宮島町）運営上人と伝えられています。運営上人は寂れ果てた亀居城の城跡を見て隠居の場所にふさわしいと考え、この地に移り住み修行に励みました。その姿に感銘を受けた人々は、上人のために寺院を建立したいと考え国主福島正則に願い出しました。

かねてより上人を尊敬していた福島正則は、元和元年（一六一五）に亀居城内にあった圓通寺を移築し、新たに西念寺と名付けました。現在、西念寺にある観世音菩薩像は、元は圓通寺の本尊（一説には福島正則の守本尊とも）だったと伝えられています。

■砲弾の傷跡

慶応二年（一八六六）八月二日、長州の役のさなか、征長軍の軍艦が長州軍の占拠する小方村を砲撃しました。本堂の梁を支える「肘木」には、当時の砲弾の傷跡が今も残されています。

■大クスノキ

本堂の東にあるクスノキは樹齢四百年とも言われ、市内でも有数の老樹です。

平成二十六年三月